



# なばり

2017 (平成29年) 5月25日発行

主 内容

- 2……名張クリーン大作戦2017
- 3……職員採用試験
- 4～5……市立病院だより「きらり」
- 7……二次救急実施病院
- 8……ひまわり、有料広告

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp

名張市の1人1日  
あたりのごみの量※

**742g**

名張は1人あたりのごみが  
県下14市で1番少ないまち

家庭ごみ有料化から9年

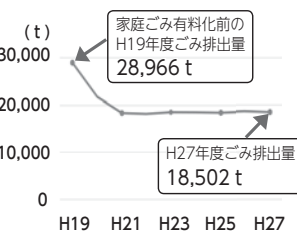
## ごみはどれだけ減ったのか？

市は、ごみの排出量を抑制するために、平成20年度から家庭ごみの有料化を実施してきました。その結果、ごみの排出量は大幅に減少しました。近年は、ほぼ横ばいの状態が続いています。今号では、どれだけごみが減ったのか、そして今後さらにごみを減らすためには何をすべきなのかを考えます。

環境対策室 ☎63・7496 伊賀南部環境衛生組合 ☎53・1120



名張の可燃・不燃ごみ排出量の推移



※1人1日あたりのごみ排出量の計算式(1年間の「燃やすごみ」「燃やさないごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」の合計÷1年間の集団回収量)÷人口÷365日

**家庭ごみの有料化の導入後  
ごみは約1万トン削減**  
市では、市全体のごみの量を減らすためやごみの排出量が多い家庭と少ない家庭での、ごみ処理費用の負担を公平にするために、平成20年度から家庭ごみ有料化を導入しました。家庭ごみ有料化の前後でごみの量を比較すると、市民の皆さんのご協力により家庭での分別が進み、排出量は大幅に減少しました。

これは、有料化によるごみ減量の意識と、容器包装プラスチックの資源化などを導入し、分別への誘導が効果的に進んだ結果と分析しています。その後、ごみの排出量が減少した状態を維持できたことから、平成25年度には指定ごみ袋の価格を約20%引き下げました。

「ごみを発生させない」という考え方

平成24年度から4年連続で、名張市は1人1日あたりで換算したごみ排出量が県下14市の中で1番少ないまちになっています。ここからさらにごみを減らすにはどうすればいいのでしょうか。やはりごみを減らすためには、一人ひとりの意識と行動の積み重ねが重要です。まず、ごみが発生する原因を作らないようにすることが大切です。

県下14市の1人1日あたりで換算した  
ごみ排出量が少ない上位3市

	1位	2位	3位
平成24年度	名張市 756g	いなべ市 761g	伊賀市 778g
平成25年度	名張市 752g	いなべ市 792g	伊賀市 792g
平成26年度	名張市 754g	いなべ市 792g	伊賀市 817g
平成27年度	名張市 742g	いなべ市 768g	伊賀市 777g

「食材を買い込みすぎない」「簡易包装の商品を選ぶ」「修理して使えるものだけ長く使う」などのことは今からすぐに取り組むことができます。自分たちにできることから取り組んでいきましょう。

## 分ければ資源、混ぜればごみ

容器包装プラスチックの分別チラシを各世帯へ配布



さまざまな商品に使われている容器包装プラスチックは、ひと手間加えるだけで再び資源として生まれ変わります。

今回、容器包装プラスチックの分別についてまとめたチラシを作成し、順次配布しています。ぜひ分別時の参考にお使いください。

## 食べ残しゼロでごみ削減へ

まだ食べられるのに捨てる「食品ロス」を削減

日本では毎年、約500～800万tのまだ食べられる食べ物が捨てられています。環境にも家計にもやさしい「もったいない」の気持ちを大切に、食べ残しを減らしましょう！

食べ残しを減らす3つのポイント！

- ① 食材を買い過ぎない
- ② 食材を使いきって調理し、残さず食べる
- ③ 外食時の注文は食べきれただけにする



家庭で簡単にできる  
ごみ削減のコツ